

1 地域の概況

(1) 村山地域の主要指標

項目	年次	単位	東南村山	西村山	北村山	村山地域計	県計	全県比	
面積	R4.10.1	km ²	827.84	935.56	855.99	2,619.39	9,323.15	28.1%	
人口等	総人口	R4.10.1	人	357,757	74,398	89,660	521,815	1,040,971	50.1%
	年少人口	R4.10.1	人	40,999	8,207	10,314	59,520	113,436	52.5%
	老年人口	R4.10.1	人	113,204	27,547	31,220	171,971	362,008	47.5%
	年少人口比率	R4.10.1	%	11.5	11.0	11.5	11.4	10.9	
	老年人口比率	R4.10.1	%	31.6	37.0	34.8	33.0	34.8	
	合計特殊出生率	R3年	-				1.30	1.32	
市町村内総生産額	R1年度	億円	14,159	2,791	4,904	21,854	43,367	50.4%	
1人当り市町村所得	R1年度	万円				302.6	290.1		
農業	総農家数	R2.2.1	戸	7,817	4,489	6,103	18,409	39,628	46.5%
	販売農家数	R2.2.1	戸	4,747	2,563	4,191	11,501	26,796	42.9%
	耕地面積	R3.7.15	ha	12,431	6,649	13,740	32,820	115,800	28.3%
	水稻の収穫量	R3年産	t	33,460	17,571	40,720	91,800	393,800	23.3%
工業	製造品出荷額等	R2年	億円	6,058	1,858	5,080	12,996	28,323	45.9%
	事業所数	R3年	か所	557	190	229	976	2,277	42.9%
	従業員数	R3年	人	21,661	8,723	13,231	43,615	97,429	44.8%
	従業員1人当	R2年	万円	2,796.5	2,129.8	3,839.5	2,979.6	2,907.0	
商業	卸売事業所数	R3年	か所	1,067	120	126	1,313	2,451	53.6%
	卸売業販売額	R3年	億円	8,405	254	441	9,100	12,731	71.5%
	従業者数	R3年	人	10,040	757	761	11,558	19,293	
	従業員1人当	R3年	万円	8,371.2	3,360.6	5,795.0	7,873.4	6,598.6	
	小売事業所数	R3年	か所	2,734	680	817	4,231	9,149	46.2%
	小売業販売額	R3年	億円	4,107	679	840	5,627	11,006	51.1%
	従業者数	R3年	人	20,876	4,095	4,567	29,538	59,224	
	従業員1人当	R3年	万円	1,967.4	1,659.1	1,839.9	1,905.0	1,858.4	
その他	観光客数	R3年度	万人	625.4	400.9	322.9	1,349.2	3,005.9	44.9%
	道路改良率	R4.4.1	%	92.6	83.3	93.8	90.0	-	
	道路舗装率	R4.4.1	%	95.5	88.1	97.1	93.8	-	
	生活排水処理施設普及率	R4.3.31	%	99.1	89.5	93.4	96.7	93.9	
	高校等進学率	R3年度	%	99.6	99.1	99.3	99.5	99.5	
	大学等進学率	R3年度	%	54.6	46.6	44.3	51.6	49.5	

資料：全国都道府県市区町村別面積調、山形県の人口と世帯数、少子化・次世代育成支援対策関係データ集、市町村経済計算、東北農林水産統計年報、経済センサス、山形県観光者数調査、村山総合支庁道路課調、山形県の下水道、学校基本調査

注：道路改良率・舗装率については、村山総合支庁が管理する一般国道及び県道（自転車道を除く。）の合計数

(2) 地域のおこり

○古代・中世

大化改新前後、現在の山形県内陸地方は、東北地方の中では、福島～宮城とともに坂東（坂の東：東山道の碓井(ウスイ)峠(群馬・長野県境)と古東海道の足柄峠(静岡・神奈川県境)から東の、後に関東と呼ばれた地域の呼称)の延長線上に属し、北奥羽三県の地とは、稲作文化の進展度においても一段違った展開をみせていた。出羽地方に国造(クニミヤコ:大和朝廷が各国においた地方官)がいたという資料は無く、蝦夷(エミシ)と呼ばれた東北地方原住民の人々とその国土に対する、大和朝廷の支配は放任的であった。日本書紀の記事では、689年には現置賜郡に当たる地域が、陸奥国優嗜曇郡(ミチノクニウキタミノホリ)と表記されており、奥羽経営のために設けられた柵の管轄下に入っていたと考えられている。当時の住民の生活は狩猟本位の肉食生活の伝統から、次第に農耕民的な生活に変わり、七世紀末になると次第に米食に移行していくようになっていた。

「続日本紀」によると和銅元年(708年)に、庄内地方に出羽郡が置かれ、最上川以南を郡域としたが、712年に現在の村山・最上地方を指す最上郡と、置賜郡の二郡が新たに置かれ、ほぼ山形県域が新しい出羽国にまとまったとされる。

律令を補足した施行細則である延喜式・兵部式の「諸国駅伝馬条」によると、奈良朝から平安朝の出羽山道駅路には、「駅馬 最上(モカミ)十五疋、村山(ムラヤマ)・野後(ノジリ)各十五疋、遊翼(サカネ)十二疋…… 伝馬 最上五疋、野尻三疋・船五隻……」との表記があり、最上駅は現在の山形市、村山駅は東根市地内、次の野後駅は大石田町地内というふうに、村山から飽海まで最上川に沿って駅が並んでいる。

その後、八世紀末からの坂上田村麻呂の征夷を経て平安時代に入ると、大地震の影響によって出羽国府を庄内から最上郡へ南遷することの論議(国府南遷の議)が起こったが、交通不便の地ということから見送られた。延喜式によると出羽国の管下にあった郡は、最上(モカミ)村山(ムラヤマ)置賜(オキタム)……と十一郡あり、その郡衙の位置は最上郡が山形市東部か天童市清池付近、村山郡が東根市郡山付近と推定される。

国府南遷の議以降、鎌倉・南北朝期にいたるまで、出羽国府は庄内の地を離れることは無かったが、この時期に論議が行われたことの意味は大きく、最上郡すなわち村山盆地の南部が中世以降になって出羽国の政治的中心となるにいたる歴史的傾向を予告するものと言える。

<「山形県史第1巻」より>

○近世

村山郡は886年、最上郡が二分され、最上・村山郡となって成立した新郡である(村山の語源は山々に囲まれた山里であることから、^{むれやま}群山から来たものとされている)。ここで意外なのは、旧最上郡のうち最上郡が南部で村山郡が北部となっており、現在とは逆の位置関係にあったことである。つまり、現在の村山地方がほぼ当時の最上郡で、現在の最上地域がほぼ当時の村山郡であった。村山郡と最上郡の位置が現在のように逆転した理由は諸説あるが、逆転の時期は江戸初期と考えられており、正保年間、恐らくは正保出羽一國御絵図作製のときに政治的に確定したと推測される。

幕末の村山郡は、尾花沢、寒河江などの幕府領の4陣屋、山形藩、上山藩など城付領4藩、柏倉陣屋、山野辺陣屋など5つの飛地藩領と1旗本領が混在していた。その後、明治維新、廃藩置県を経て、明治11年の郡区町村編制法の施行で村山郡は消滅し、東村山、西村山、南村山、北村山の4郡に分割された。

<「角川日本地名大辞典6. 山形県」より抜粋>

(3) 土地利用

村山地域における土地利用区分別の主な面積は、農用地が 32,874ha、森林が 172,981ha、住宅・工場用地等が 12,214ha となっており、県全体と比較して、森林面積の割合が小さく、宅地面積の割合が大きくなっていることが特徴である。

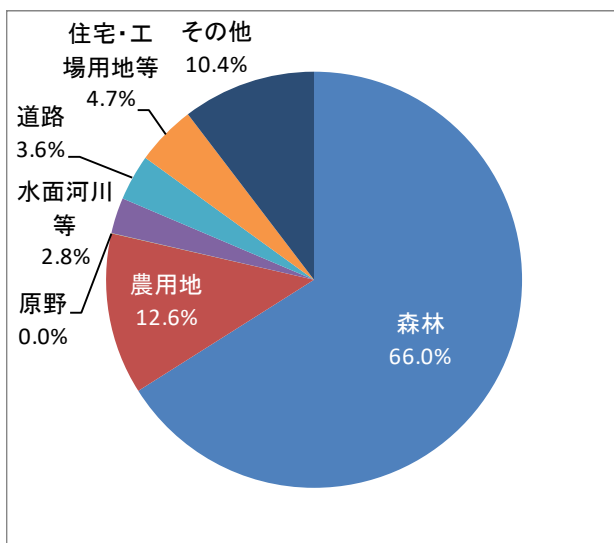
県土の利用形態別面積（令和3年10月1日現在）

(単位：ha)

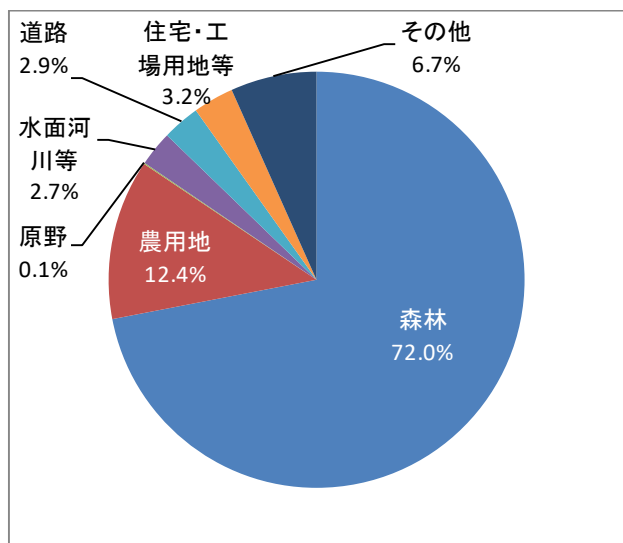
市町村名	総数	農用地	森林	原野	水面・河川・水路	道路	住宅・工場用地等	その他
山形市	38,130	5,070	21,392	-	862	2,163	3,983	4,660
上山市	24,093	2,190	16,855	-	418	756	809	3,065
天童市	11,301	3,450	3,777	-	346	807	1,562	1,359
山辺町	6,145	777	3,170	-	239	274	331	1,354
中山町	3,115	971	1,001	-	176	237	267	463
寒河江市	13,903	2,550	7,064	-	610	645	1,058	1,976
河北町	5,245	1,773	1,423	-	513	343	497	696
西川町	39,319	481	35,265	-	857	693	200	1,823
朝日町	19,681	1,045	14,863	-	743	447	266	2,317
大江町	15,408	828	12,623	-	185	373	243	1,156
村山市	19,698	3,727	11,410	21	540	686	805	2,509
東根市	20,694	3,000	13,349	-	385	674	1,318	1,968
尾花沢市	37,253	5,340	26,570	-	918	946	631	2,848
大石田町	7,954	1,672	4,219	-	530	289	244	1,000
村山地域	261,939	32,874	172,981	21	7,322	9,333	12,214	27,194
対県比	28.1	3.5	18.6	0.0	0.8	1.0	1.3	2.9
山形県	932,315	116,053	670,946	796	25,346	27,370	29,446	62,358

資料：山形県県土整備部県土利用政策課

村山地域の利用形態別面積比



山形県の利用形態別面積比



(4) 気象

令和4年の地域別気象をみると、山形地区は、村山地区内の他の地域に比べ、年間の平均気温が高く、山形盆地中央部の温暖な特徴が見て取れる。また、左沢及び尾花沢は、平均気温が低く、特に尾花沢は県内有数の豪雪地帯となっている。

地域別気象（令和4年）

項目	単位	村 山			最 上	置 賜	庄 内
		山 形	左 沢	尾花沢	新 庄	米 沢	酒 田
平均気温	℃	12.6	10.8	11.3	11.5	11.6	13.6
年降水量	mm	1,177.5	1,456.0	1,890.5	2,421.5	1,712.0	2,113.5
平均風速	m/s	1.8	1.5	2.4	2.6	1.4	4.2
年間日照時間	時間	1,743.9	1,662.5	1,523.3	1,432.2	1,687.3	1,657.0
最深積雪	cm	88	116	206	176	154	43

資料：「気象庁ホームページ」気象統計情報＞過去の気象データ検索＞年ごとの値

